

高校生の安全に関する意識調査結果を読み説く

明石 要一(青少年教育研究センター長・千葉敬愛短期大学学長)

1 調査のねらいは何か

「日本人は水と安全は無料」という意識を持つ、といったのは『日本人とユダヤ人』を書いたイザヤ・ベンダサン（山本七平氏）である。この本が出版されたのが昭和45年であるからもう46年も立つ。今でも、私たちは水はどこでも飲み、どこに行っても安全だ、と思いがちである。

果たして、日本の高校生たちはこの「安全」意識はどう思っているのだろうか。彼らはネット被害からいじめや食品被害に至るまで様々な危険状態の時代に生きている。そして取り巻く社会は大きく変貌し、危機管理能力が問われるようになっていっている。さらに、彼らの中には5年前の東日本大震災を体験し、自然災害による精神的に物理的に甚大な被害を受けた者がいる。

そこで、日本の高校生の安全観と危機管理意識を確かめようとしたのが、本調査研究のねらいである。

その際、日本の特徴をはっきりさせるために中国と韓国、それから米国の高校生を比較対象に選んでいる。中国は食品被害が大きな社会問題となっている。韓国はセウォル号の沈没事案で高校生たちが被害を受けている。米国は言うまでもなく銃の規制が大きな社会問題となっている。

2 調査結果はどうなっているか

1) 意外と少ない、この一年間の事故と「けが」体験

- ・「階段から落ちた」
- ・「蜂や毒虫に刺された」
- ・「草木にかぶれた」
- ・「木やはしごなどの高いところから落ちた」
- ・「プールでおぼれた」

という野外や外遊びで遭遇する「けが」体験は、米国が突出して多い。

日本は「車にぶつかった」、「階段から落ちた」、「草木でかぶれた」を除くと「けが」体験は少ない。

2) どんな「けが」体験をしたか

やはり米国は次の「けが」の種類が多い。

- ・「擦り傷」 (79.5%)
- ・「切り傷」 (83.4%)
- ・「打撲・ねんざ」 (78.9%)
- ・「やけど」 (47.5%)

韓国は「切り傷」 (65.1%) と「刺し傷」 (30.9%) が特徴的である。

日本は「擦り傷」（77.4%）と「切り傷」（63.1%）が特徴的である。

米国は「ワイルドだ」といえる。日本を初めとした北東アジアは「けが」の種類は比較的軽い。

3) どんな被害を受けたか

「事故」や「けが」は自分から働きかけて生じるものと他者から受けるものがある。それを「被害」と呼ぶ。

米国が受けた被害は、次のものが特徴的である。

- ・「目の前で悪口を言われたり、からかわれた」
(56.6%米国>40.2%中国>39.0%韓国>35.7%日本)
- ・「仲間はずれにされた」
(60.9%米国>27.3%中国>21.5%日本>8.3%韓国)
- ・「脅迫を受けた」
(32.6%米国>11.4%中国>4.3%韓国>4.1%日本)
- ・「お金や物をむりやり奪われた」
(15.7%米国>4.0%中国>3.8%韓国>3.0%日本)

中国の特徴的なもの

- ・「盗撮された」
(44.1%中国>22.6%米国>11.8%日本>7.8%韓国)

意外だが、「いじめ」や「恐喝」に近い被害は米国に多い。米国においては友だちからひどい仕打ちを受けた者が多い。日本だけ見ると、「いじめ」は悲惨で人間関係を悪くしていると思いがちである。ところが、米国はもっとひどいことが起こっているようだ。

4) ネットではどんな被害を受けたか

被害は直接的な人間関係だけでなく、疑似的な環境でも起こりうる。ここではネット被害に限定した。

ネット被害では、中国が際だっている。

- ・「インターネットで架空の請求を受けた」
(41.3%中国>11.8%日本>7.5%米国>4.4%韓国)
- ・「インターネットでIDやパスワードが盗まれた」
(46.2%中国>21.5%韓国>12.5%米国>3.0%日本)
- ・「インターネットショッピングで被害に遭った」
(16.6%中国>6.0%米国>4.4%韓国>1.3%日本)

ネットで悪口を言われたのは、韓国と米国

(33.8%韓国>32.2%米国>20.3%中国>8.2%日本)

米国はネットでも「いじめ」と「脅迫」と「性的な嫌がらせ」を受けている。

- ・「ネットで脅迫された」
(21.3%>米国>7.4%中国>5.9%韓国>1.8%日本)
- ・「インターネットで集団的ないじめを受けた」
(16.0%米国>4.8%中国>2.9%韓国>1.4%日本)
- ・「インターネットで性的な嫌がらせを受けた」
(14.1%米国>5.7%韓国>1.6%日本)

興味深いことに日本と韓国はネット被害やネット「いじめ」に遭ったことが少ない。

一方、中国はネットでのトラブル（IDを盗まれるや架空の請求を受けるなど）、米国は集団的ないじめや脅迫、それから性的な嫌がらせのように陰湿で悪質な被害を受けている。

5) 危機回避意識はどうなっているか

①防災と防犯行動

ここでは国別の違いはあまり見られない。総じて数値は高い。が、敢えて言えば韓国が次の項目で高い。

- ・「外出するときにはたとえ短時間でも鍵をかける」
(76.8%>韓国>70.5%日本>68.4%中国>57.2%米国)
- ・「相手を確認してからドアを開ける」
(75.6%韓国>69.1%中国>65.3%日本>64.5%米国)

意外に韓国は自衛的な手段をとっているようだ。高いと予想された米国が一番低いのはなぜだろうか。

米国が高い項目

- ・「濡れた手でコンセントを触らない」
(88.9%米国>70.0%中国>63.4%韓国>57.9%日本)

中国が高い項目

- ・「鍋で油を加熱するときはその場を離れない」
(61.9%中国>53.7%日本>52.7%米国>43.6%韓国)

何でも炒める文化の中国の特徴が見られる。

日本で気になるのは、映画館や旅館などで「非常口を確認するようにしている」が一番低いことである。わずか8.5%にとどまる。

(22.7%米国、22.4%中国、22.2%韓国>8.5%日本)

②交通安全や野外活動での安全行動

ここでは日本の特徴が伺える。山や海などの危険区域への規則は守っている。

- ・「海や山の立ち入り禁止の所には入らない」
(83.5%日本>76.4%中国>72.4%韓国>35.8%米国)
- ・「監視員のいない浜辺や湖畔では泳がない」
(67.1%日本>58.8%中国>53.7%韓国>12.9%米国)

信号を守っているのは、日本（74.4%）と中国（79.8%）である。

米国は車のシートベルトの着用ではトップである。車社会のトップの顔が伺える。

③食の安全

食の安全に気を配っているのは中国である。次の項目で数値がトップである。

- ・「賞味期限が過ぎたものは食べないようにしている」
- ・「食べ物を買うときは添加物を確認している」

日本は食に関する信用があるのか、関心は低い。

④身を守る保身行動

これについては、どの国も大きな差は見られない。その中でも中国がインターネットに注意を払っていたり、外出するとき親に伝えている、という特徴は見られる。

6) どの国もしっかりした安全教育がおこなわれている

これまでどのような安全教育を受けてきたか。どの国も「交通安全」、「防災・防犯訓練」それから「避難訓練」という基礎的な安全教育はもとより、今日的な「インターネット被害の予防」や「心肺蘇生の応急措置」、「食の安全」等の教育はかなり受けてきている。

その中で、国ごとの特徴的なことは次のことである。

- ・日本は「インターネットの被害の予防」と「交通安全」
- ・韓国は「心肺蘇生の応急措置」と「暴力や犯罪から身を守る」
- ・米国は「食べ物の安全」と「野外活動における安全」

7) どんな安全問題に関心があるか

- ・日本は「地震や台風などの自然災害問題」が突出して高い。

(55.3%日本>31.2%韓国>27.9%米国>9.6%中国)

- ・中国は「食品の安全問題」が突出している。

(75.8%中国>54.6%日本>40.3%韓国>22.1%米国)

- ・韓国は「地域の治安の問題」と「建築物の安全の問題」が飛び抜けている。

(38.3%韓国>27.7%米国>18.3%中国>14.7%日本)

(24.7%韓国>18.4%米国>13.4%日本>9.1%中国)

・米国は他の国と比べると全体的に数値が低い。その中でも、「水質汚染の問題」が関心を集めている。

8) 生活での危険や不安をどれぐらい感じているか

危険が増えていると感じているのは米国（54.7%）、次に中国（48.9%）、日本（48.2%）、韓国（37.6%）である。

いまの社会が安全と思っているのは日本（67.1%）、次が米国（62.2%）、中国（56.8%）、韓国（27.2%）が続く。

日本は確かに、危険や社会的な不安は増えているが、今の社会は全体的に見ると安全だ、と
思っている。米国、中国も数値は若干下がるが日本とほぼ同じ認識である。気になるのは韓国
である。今の社会が安全だとは思っていない。

9) 野外活動への参加

- ・なぜか野外活動などの屋外の活動への参加が日本が一番少ない。
何度もある数値 (24.2%米国>13.9%韓国>9.7%中国>9.4%日本)
- ・日本の親は子どもに野外活動への参加を勧めていない。薦める親は3割に届かない。
(84.2%中国>71.5%米国>67.7%韓国>29.2%日本)
- ・日本は野外活動が好きな人が1番少ない。
83.2%中国>82.4%米国>73.8%韓国>56.5%日本)
- ・「親と一緒に野外活動をしてくれた」数値は日本が一番低い。
(53.8%中国>51.0%米国>45.1%韓国>37.1%日本)

10) ボランティア活動への参加

- ・日本の高校はボランティア活動への参加が少ない。健闘しているのは「街や公共の施設の
掃除」ぐらいである。「高齢者や身体の不自由な人への支援」や「献血」は他の3か国に比べ
ると少ない。
- ・「ボランティアに参加したことがない」は4か国一番数値が高い。
(16.7%日本>13.5%中国>12.8%米国>7.9%韓国)

この1年間の「怪我」や「事故」体験では米国が突出して多い。日本は比較的少ない。米国の
高校生は多くの体験をしているからだろうか、様々な「事故」と「怪我」に遭遇している。
まさに「ワイルド」の世界を体験している。そして、米国はいじめの被害や恐喝などの被害を
受けている。

ネットの被害では中国が多く受けている。次が米国である。日本と韓国は中国、米国と比較
すると意外と少ない。

野外活動での安全行動では、日本は海や山でのルールはよく守っている。そして、信号のル
ールも守っている。

食の安全意識では、中国が高いが、日本の数値が低いのが気になる。また、身の回りの安全
回避では、「劇場や旅館の避難経路」を確認する者が少ないのも気になる。

日本の高校生は、危険や不安は増えていると思っているが、今の日本は安全だ、と思ってい
る。

しかし、気になるのは日本の高校生の野外体験とボランティア体験が少ないことである。そ
して、親たちが野外活動を勧めていないことである。野外活動は様々な体験をするが故にまさ
に危険と裏表である。行動半径の狭い日常生活ではそれほど危険な目に遭遇しない。日本の高
校生たちは、日本という井の中の蛙になっているのではなかろうか。日常生活から一步踏み出
すと米国のように「ワイルドな世界」を体験できるだろう。